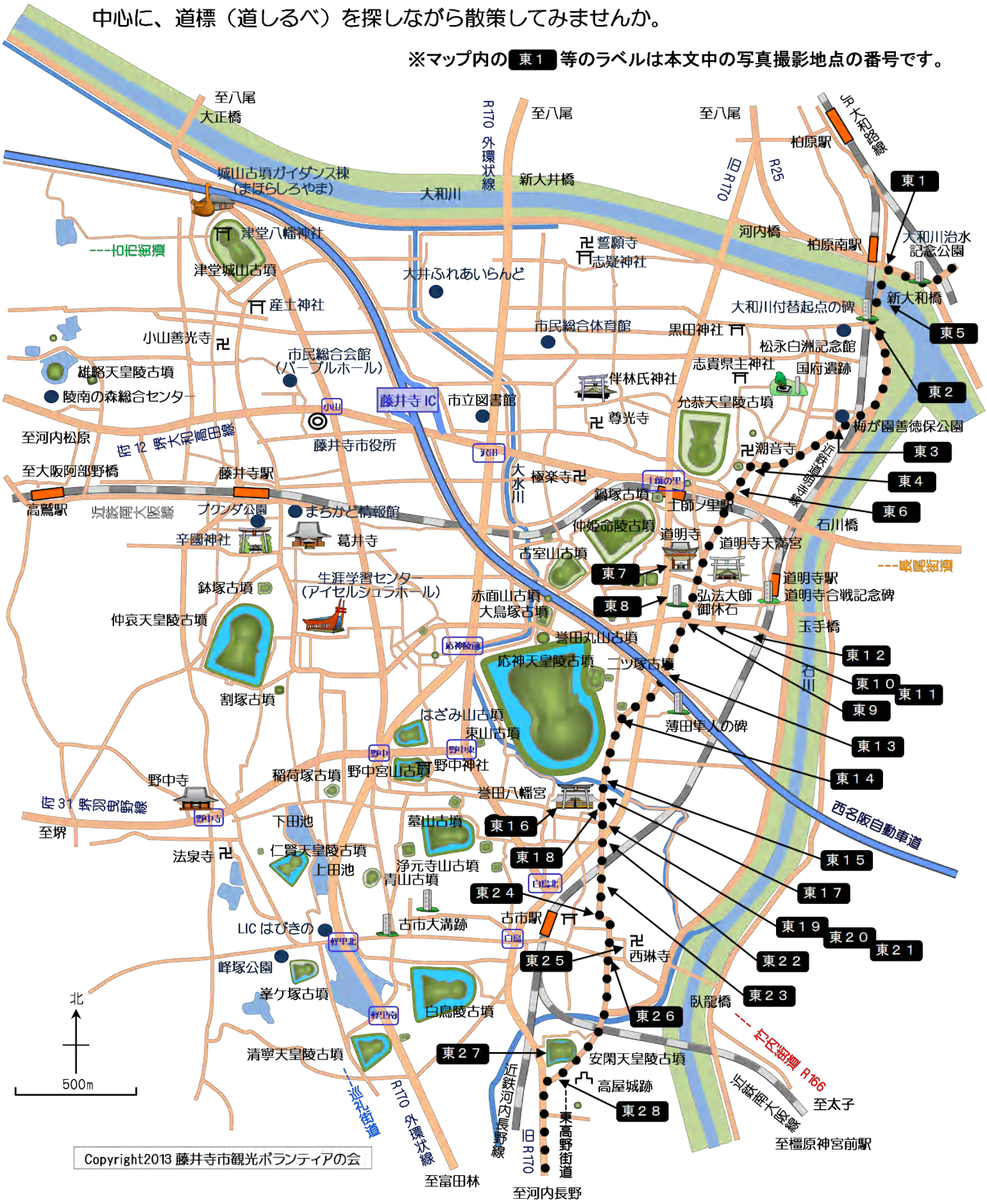
「五街道の道しるべを巡り歩く」シリーズマップ

藤井寺市域及び周辺には、東高野街道・長尾街道・古市街道・巡礼街道・竹内街道と東西・南北に古くからの道が通っています。江戸時代にはこれらの街道を利用して、寺社参詣や商いなどで多くの人が行き交いました。移動されているものも多くありますが、街道の要所には、道標（道しるべ）が建てられています。藤井寺市域の街道沿いを中心に、道標（道しるべ）を探しながら散策してみませんか。

※マップ内の 東１ 等のラベルは本文中の写真撮影地点の番号です。



Copyright2013 藤井寺市観光ボランティアの会

29. 五街道の道しるべを巡り歩く　その一　「東高野街道」　後編

さらに南進すると、西名阪自動車道が見えてきます。これをくぐると羽曳野市域になります。

東１３

羽曳野市・藤井寺市両市の境界付近に、昭和 30（1955）年に建てられました。元和元（1615）年、「大坂夏の陣」の道明寺合戦で討ち死にした、薄田隼人兼相（すすきだはやとのしょうかねすけ）の墓への案内がかかれています。
＊上記の道標は現在行方不明。筆者も近辺を探しましたが、見つけることはできなかった。

旧 170 号線を横断し栗塚を右手に見ながら進むと、誉田中学校西門の三叉路にでます。

東１４

南　面	西　面	北　面
右　道明寺　玉手　なら　京	上之太子　王水町	天保九戌年　浄西信士
左　八尾　久宝じ	道　施主	法名　沙春信士
	こうや　武右衛	三月吉日　諦法暢演信士

東１４

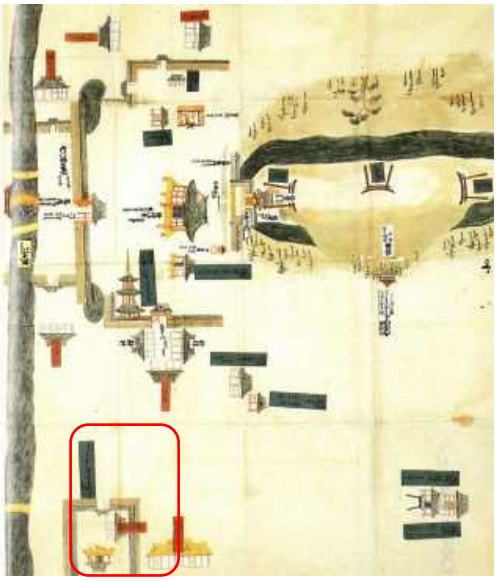
⑦　羽曳野市立誉田中学校の西門の傍らにあり、東高野街道の分岐点にあたる。
この道標は、天保 9（1838）年 3 月、誉田村王水の三名の供養として建立されたらしい。

さらに、進むと誉田八幡宮の手前に小さな橋が架けられています。この水路は石川の樋から取り込まれており、大乗・碓井・放生川と様々に呼ばれているが、八幡宮境内の放生橋の下を流れて行きます。水路の手前の空地が「当宗（まさむね）社」旧地です。

誉田中学校から東高野街道を南へ　東１５

黄色・当宗社跡　　赤色・石橋跡

誉田八幡宮境内にある、現・当宗（まさむね）社は拝殿から放生橋へ向う参道左側　（写真左）　東高野街道に架かっていた石橋　東１６　（写真右）



二つの絵図内に、当宗社が描かれ、その横を流れる放生川に架かる橋が見て取れる。

河内名所図会　　誉田八幡宮の境内図（年不明）

また、現在境内に置かれている巨石。元は東高野街道にかかっていた石橋と言われています。

放生川から５０ｍほど進むと、右手に小堂が見えてきます。

東１７

寺寅十二月廿七日

道　為俗名惣七

右　滝谷　龍泉寺

左　道明寺

東１７

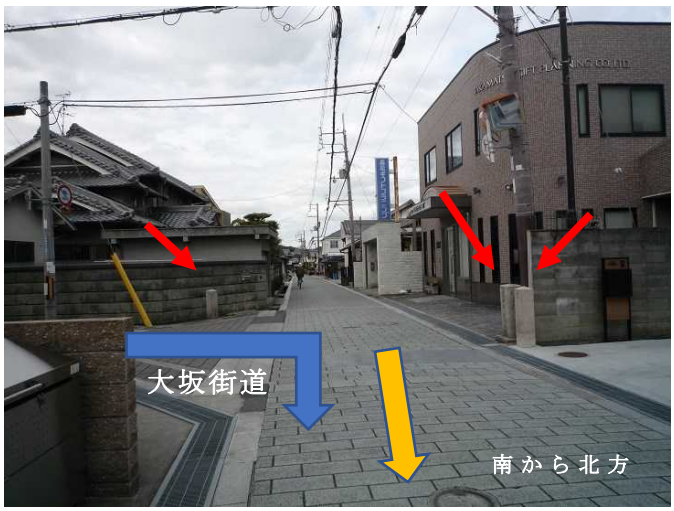
⑧　道林寺の土塀とブロック塀の間に東面する妻入り型の小堂があり、内部に三体の石地蔵が

祀られている。向かって右側の舟形浮彫地蔵の光背面に、道標が刻まれている。持錫持宝地蔵の右側には「右　滝谷　龍泉寺」、左側には「左　道明寺」とあり、左右が逆になっている。もとは街道の向い側に立てられていたという。また、傍らに上部が欠損した舟形浮彫地蔵があるが、この光背面にも地蔵の右側に「[redacted]寺寅十二月廿七日」、左側に「[redacted]道　為俗名惣七」とある。道標を兼ねているらしいが、詳細は不明である。

小堂の並びに誉田八幡宮の土塀が続き、街道らしい雰囲気が体感できます。

東１８

誉田八幡宮を過ぎると、西から来る大坂街道 → と合流し蓑の辻へ向かいます。



西面	南面	東面
右　いせみち	左　ふぢ井寺　大坂道	文化二年丑八月 右　道明寺　玉手山

東１９

⑨　東高野街道に大坂街道が直交する地点の北西隅にある。文化 2（1805）年 8 月に造立されたもので、南面と東面は東高野街道を北上してきた旅人を対象にしており、西面は、古市の蓑の辻で竹内街道に入ると、伊勢へ通じることを示す。

右⑩と左⑪が並んでいる。

正面・西面	北面・左側	東面・裏側	南面・右側
右　大峯山　つぼさかたるま	すぐ　大峰道	元発起人　善吉 傳蔵　与三郎 喜兵衛	再発起人　井筒組

東２０

⑩　前述の道標の斜め向かいにある道標で、大峯山参詣が盛んになった江戸時代末期以降に、地元の有志たちの二度にわたる発起により造立されたものと考えられる。西面は野中方面より来た参詣者のための案内で、古市で竹内街道（大峰道）に入ることを示している

北面	西面	南面	東面
柏原　大阪方面	藤井寺　大阪方面	富田林　長野方面	大阪府

東２１

⑪　東高野街道と大坂街道が合流する三叉路に、⑩の道標とともに並んで立っている。造立年代は不明だが、刻銘に「大阪府」とあるので、堺県が大阪府に合併した明治 14（1881）年以降のものである。

大坂街道と合流してさらに南進すると、旧 170 号線との交差点角に常夜燈が立っています。

東２２

常夜燈の横に、「河内名所図会・誉田例祭、車樂（だんじり）」のカラー化した説明板。

近鉄電車の踏切を越え、50mほど行くと左側フェンスに怪しげな枠だけが残っています。

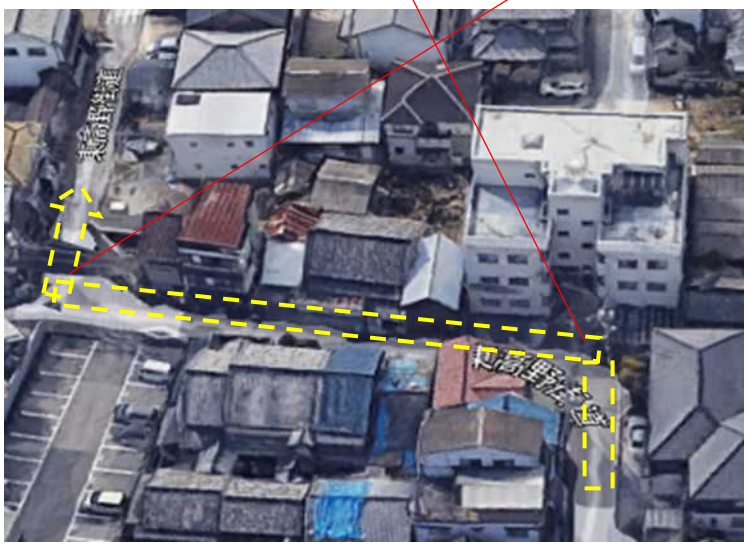
古市代官屋敷址　現在は、羽曳野市が作成掲示していた表示板も撤去されています。残念。

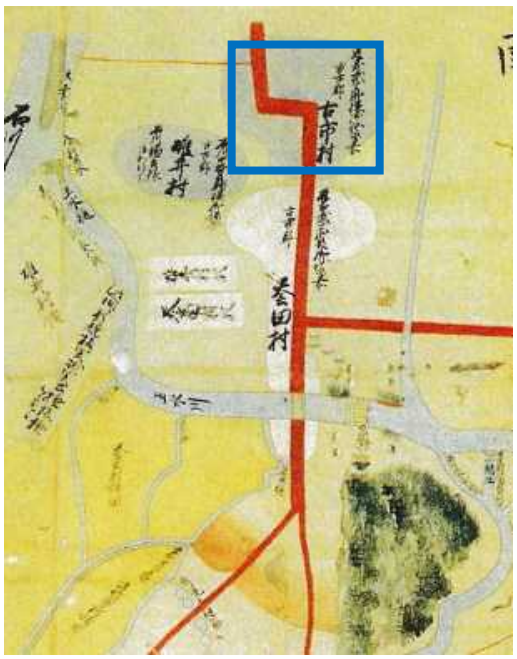
東２３

表示板の説明内容　（2013.04）

江戸時代古市は竹内街道（大和街道）と東高野街道（京街道）が交差し、石川水運の剣先船（長さ約 13 ㍍の浅瀬用の運送船）や石川の野通し船（渡し船）の船着場などがあり水陸交通の要地として非常に大切な地であった。このため江戸時代中期以降、古市村と誉田村の中間にあたるこの地に「上方代官所」を設け、古市は天領（幕府直轄地）として支配された。幕末には十津川で捕らえられた天誅組河内勢の志士たちの厳しい取調べもここで行われた。

さらに南進すると、突き当りの状態に道路がなります。左に曲がると直ぐに右へ曲がり町中にクランク道路が出現します。





Google Earth Pro 転載

東２４

王水樋七ケ村水論絵図　文化３（1806）年

集落の出入り口付近で直角に曲がっています。近世城下町と同様な、防御への配慮があったものと思われます。

やがて左手に「西琳寺」へ向かう道が見えそちらに向かうと、西琳寺の門が見えてきます。

←塔心礎

宝生院出土五輪塔→

東２５

正面・西面	南面・右側	北面・左側
右 上ノ太子 弘川寺 西行古跡 たゑま つぼ坂 大峯山上	左 大坂 さかい 道	文化十癸酉三月建立 銀治 菊治 綿新

東２５

⑫ 文化 10(1813)年 3 月に、西琳寺の門前に立てられた道標で、参詣者に対して竹内街道および付近の霊場・古跡を案内する。

また、元の道を進むと「蓑の辻」で竹内街道と交差する。大きな道標が立っています。

年代不明

大和銀行古市支店

羽曳野市商工会館

(2007.12.16)

東２６

西面	北面	南面	東面
上の太子 たゑま すぐ 高野山 左 大和路 つぼう坂 大峯山 金剛山	右 大坂 すぐ さかひ	嘉永元年 京都 井筒屋 戊申九月 九兵衛建	古市蓑の辻 補助 森田知英

東２６

⑬ 竹内街道と東高野街道の交差点、通称「蓑の辻」に立ち、両街道に残る道標のなかでは最も大きく、彫りも深い。嘉永元(1848)年 9 月に、京都の米問屋井筒屋と古市の豪農森田氏によ

り建立された。 文面から見ると、道明寺方面から東高野街道を南進、あるいは堺方面から竹内街道を東進してきた旅人を対象にしたものと考えられる。「すぐ高野山・金剛山」とは、まっすぐに東高野街道を南下するという意味である。

余談　現在は「蓑の辻会館」となっている建物、2007 年 12 月まで羽曳野市商工会館として使われていた旧富田林銀行古市支店の建物、旧羽曳野市商工会館は、明治 43(1910)年頃の建築で、富田林銀行古市支店として建てられたものである。1961 年 11 月まで大和銀行古市支店として使用されていたが、支店が駅の西側(現在地)に新築移転した後は羽曳野市の商工会が譲り受けて商工会館として使ってきた。しかし、明治期の建物はさすがに維持していくのが困難となり、ついに建て替えられることになったものである。経営が蹉跌した富田林銀行は 1934 年に野村銀行に吸収され、本店は現りそな銀行富田林支店に、そして古市支店は現羽曳野支店となっている。

蓑の辻を過ぎさらに南進する。大乗川と近鉄の踏切を渡ると右手に安閑天皇陵古墳が見えてきます。さらに進むと、左手に姥不動尊があります。

安閑天皇陵古墳　東２７

城山不動明王　東２８

中央に赤い線が描かれているが、これが東高野街道である。

○ に石不動と書かれているが現在の姥不動明王である。

高屋城址及び付近の図
文政 10（１８２７）年

東高野街道はまだまだ南進し、河内長野で西高野街道と合流し高野山へ向かいます。合流するまで各所に「道標」が残されているので、興味のある方は歩かれるのも楽しいと思います。

今回、東高野街道はここまでの散策とします。　（2024.4　中村）